

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700061		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームすま飛松		
所在地	神戸市須磨区板宿町2-5-23		
自己評価作成日	平成26年5月7日	評価結果市町村受理日	平成26年7月24日

※事業所の基本情報ほ、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成26年5月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣には商店街やスーパーがあり、買い物や散歩に行かれ楽しめる場所への取り組み又は季節を感じて頂ける様に外出の機会を多くもてるように努めています。ホーム内においても居心地よく、安楽に過ごせる空間づくりに努めています。生活の主体は入居者様にあるという事を共通認識としてもち、関わりや支援の方向性の擦り合わせを重ね環境づくりに努めています。オープン当初から共に暮らす、寄り添う支援への共通認識を職員間で共有し、きめ細かなケアサービスや傾聴する姿勢を大事にしています。意思疎通が困難な場合でも、気づきに重点を置き、表情、姿勢、体温などから入居者様の想いを汲み取れる支援を常に念頭におき、支援に繋げています。

・入浴したくなれば夕食後でも入る方があり、銭湯に入りたいと職員と一緒に銭湯に行く方もある。職員は陰ひなたになり、さびしくないように、常に私たちがそばにいて暮らしていけたらよいと、職員が考えた事業所の標語「共に暮らす・寄り添う支援」を実践している。
 ・個々人の思いを丁寧に聞き、外出の楽しみを大切にしている。買い物に行く近くの板宿商店街はアーケードが続き、昔ながらのお店が続いていて散歩するだけでも楽しめる。また神戸花鳥園、須磨離宮、王子動物園と鳥や花を見に遠出もしている。
 ・訪問日の早朝に利用者が亡くなられたが、あらかじめ決めた手順通りに対応がなされ、職員は忙しさの中にも、落ち着きを感じられた。これまでの看取り経験とその後の振り返りが生かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を実践し、すま飛松として「共に暮らす」「寄り添う」支援を共有している	法人の理念、行動規準、信念等が玄関に掲げられている。職員のネームカードの裏に理念を記し、こころの拠りどころとしている。事業所の標語を「共に暮らす」、「寄り添う」支援として共有している。	「寄り添う支援」の解釈は一人ひとりの職員で異なります。具体的行動に移せるような標語を決めて、毎月、それらの言葉を朝礼で唱和したらいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会との交流を行い、ボランティアでイベントを開催してくれている。運営推進会議を開催し交流の機会を持っている	自治会に加入し、総会に年1回参加している。運営推進会議メンバーの自治会長から行事予定などの情報が提供されるが、出来るだけ近隣情報に関心を払い回覧板や催し物案内にも目を通して見ている。住宅がたてこんでいる地域だが理解ある隣人の広い庭を散策することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会への参加、運営推進会議を通してアプローチしている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を通してサービスの内容や実施状況、取り組み状況を話し合いサービスの向上に努めている	自治会館で開催する運営推進会議には自治会長、住民、家族、地域包括支援センター職員等が参加する。運営状況や利用者の様子等が報告されるほか、避難訓練や板宿八幡神社のお祭り神輿も最近の話題であった。利用者全員の家族に会議録を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に情報共有を行なっている	地域包括センター等、公の地域資源を活用するようにしている。センターからの紹介で「認知症と成年後見人制度勉強会」や「板宿民児協・小地域連絡研修会」等に参加している。須磨区地域密着型事業所の空き情報を検索できる仕組みを自治体と構築している。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や不適切なケアをしないよう研修や勉強会を通して全職員共通認識出来ている	職員の入職時、入職後も定期的に身体拘束についての研修を行い、感想文で確認し共通認識をもつようにしている。門や玄関の扉、エレベーターの開閉等は錠あるいはキーナンバーで管理されている。短時間でも施錠をしないようにすることを検討課題にあげている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修や勉強会を行なっている	介護分野での虐待について継続的に職員研修をしている。意欲向上部会の活動テーマであるスマイルセラピーは利用者と職員のストレスも軽減している。行政からDVDを借り虐待防止について実践的に学んでいこうとしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修『後見人制度』に参加した職員が勉強会を用いて全職員に後見人制度について発信した	地域包括支援センター主催の研修会に代表者が参加し職員に伝達講習を行った。利用者3人が成年後見人制度を利用している。金銭管理に関心が偏りがちだが、もう一方の身上監護にも気を配る必要がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容に対し分かりやすい言葉で補足している。不安や疑問がないように質問や意見を傾聴するように心がけている	契約時には契約書、運営管理規定等を丁寧に説明している。看取りについても希望を聴き事業所内でできること、できないことを明確にして説明している。消費増税に伴うサービス料金の値上げについて質問があり説明した。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来訪時に頂いた意見、要望をカンファレンスで話し合い反映に努めている	運営推進会議に参加したり、事業所を訪れる家族に何時でも自由に発言してもらうようにしている。配食業者を変更したが質が向上し、食べ残しも少なくなったとの意見があった。家族会は無い。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談を行い意見を聞いている	朝礼は毎日行う。利用者の情報は月1回のケースカンファレンスで共有し、全職員が参加する合同会議では、ヒヤリハットや行事等の部会活動報告も活発である。職場の風通しは良く、自由に発言できる雰囲気作り心がけている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業が多くならない様に職員同士で努めている。役割や勉強会の担当、研修等、やりがや向上心が持てるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外問わず、意欲的に参加させてもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会又は須磨区リーダー会に職員、管理者が参加し同業者との関係性の構築に取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	顔なじみの関係が出来る様に取り組んでいる。困っていることを聞き出せるような支援に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との協力が必要なため話しやすい環境を作る様に関係性の構築に取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされているサービスを見極め他のサービス利用の検討も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などは職員と一緒にいき、共に生活をしている関係を築いている		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	電話や来訪時に報告、相談をさせて頂き本 人と家族様にとっても良い関係が築けるよう に努めている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の場所にドライブに行ったり馴染の場 所ではないが買い物、散歩に行く機会が多 くなり、馴染の場所になってきている	本人の希望に沿って馴染みの銭湯に職員が 同行している方もいる。コーヒーの好きな方 は喫茶外出を多くしたり、手作りの料理の食 材やスリッパ等の私物の買い物に商店街に 行くなど馴染みの関係づくりにも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の関係性を理解した上で支援し 必要に応じて職員が間に入っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すま飛松で看取りをおこなった家族様が一 周忌の訪問を快く承諾して下さい訪問させて 頂いた。ご家族の精神的な気持ちの経過を 傾聴させて頂いた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人、家族の希望を職員が聞き把握するよ うに努めている。コミュニケーションの中でも 希望、意向の聞き取りが出来る様に努めて いる	銭湯に行きたいとか鳥を見たいなど日々の 会話の中から聞いたり、家族が来訪した時に 聞いたりして、思いや意向の把握に努めてい る。意思疎通の困難な方は後見人から聞いて いる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前に本人、家族からの事前情報をしつ かり聞き取り把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	申し送りノートや口答での申し送りを行なっ ている。カンファレンスにて情報交換、把握、 実践に努めている		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の事を理解した上で話し合いを行なっている。それらを計画に反映させている	日々、聞いたことを介護記録や申し送りノートに記録し職員が共有している。皆でカンファレンスをし、介護計画を作り、モニタリングをしている。変化が見られた時は臨機応変に計画変更をし、本人や家族の同意を得、現状に即した介護計画にしている。	何がしたいのか、どこへいきたいのかなど、目標をもう少し具体的な言葉で計画を立ててみたら、その人らしさが出るのではないのでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートにより、職員間の情報共有を行なっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンス、サービス担当者会議を行い、本人家族のニーズに対し個別ケアに取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい喫茶など、定期的な交流に取り組んでいる		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望はかかりつけ医に伝え連携、相談を行なっている	かかりつけ医への受診の基本は家族で決めているが、職員が付き添う事も多い。訪問看護師に相談し、かかりつけ医師とも24時間体制で受診が可能になっている。歯科医、歯科衛生士の訪問は定期的に、また皮膚科、眼科の訪問診療を受けている方もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に対して相談している。点滴、吸引が必要になった時は看護を受けられている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師、家族との情報の共有を行なっている	入院した際は本人の情報提供書を持参し、また口頭でも付け加えている。病院の相談員や家族から、食事やADL等の様子を聞き、ホームでの受け入れ準備をしっかりとできる体制づくりをしている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針は契約時に説明させていた だいている。その状況になった時は医療関係者、家族様と密に連絡をとり、対応を行っている	契約時に看取りの指針を丁寧に説明しており、ホームでの看取りを希望する家族もある。開所して3年だが数名の看取りをした。その都度 職員で振り返りをし、研修を重ねている。夜間の場合も職員の行動手順をしっかりと身に着け、他の職員が駆けつけられる応援体制もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行なえていない。今後の実施課題でもある		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含む訓練を消防署立ち合いで年二回しているが全職員が新人職員又はパート職員の一部には身につけていないものもいる。今後、全職員が身につけられるよう訓練、指導の改善を検討している	年2回、利用者とともに防災訓練をしているが、新人職員も入ったので、まず全職員が訓練を身につけ、段階的に地域住民に参加を呼びかけ訓練ができるように準備している。避難の持ち出し書類や食料・水などの備蓄はしている。	火災や地震時の対策をよく検討し、避難所・避難経路の確認と玄関以外の逃げ道確保と誘導の仕方も近隣の方々と話し合われることを期待します。食糧備蓄は広域災害を想定してもう少し増やされてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに対して人格の尊重誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。職員同士でも言葉遣いに対して適切でなければ注意しあえる環境作りに努めている	プライバシーについては入社時に研修をしている。利用者の話はじっくり聞くようにしている。排泄、入浴は本人の希望にもよるが、同性介助を基本としている。排泄で汚れた時はそっとトイレで着替えをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望は聞いているが自己決定が出来ていない入居者がいる。その入居者に関しては家族に聞いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出、入浴などの希望時は希望に添えるように支援している		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に確認し、必要な事を支援させていただく		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けなど役割としてお手伝いして頂けることを一緒にしている	月に3回は食べたいものの希望を聞き、献立をたてている。その日は3食とおやつは手作りで、皆で買い物に行き、調理をする。エプロンをつけ、野菜の皮むき、刻みをし、炒めものをする方もある。決まった時間にコーヒーや牛乳を飲むのが楽しみな方の支援もしている。	職員が交代でも同じ食卓で同じものを楽しく食べてはいかがでしょうか。会話も弾むし食欲もわき、味付けや量、固さなど感想を聞いて献立作りに生かすこともできます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録している。普通食が困難な方は主治医と相談し個別でムース食を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。週一回個人契約ではあるが歯科衛生士の往診を受けている		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前後など定期的に声掛けをし支援している	排泄表に記入し、その方にあった時間帯に声掛けをしてトイレで排泄できるように支援している。退院後車椅子から立ち上がれるようになった方は、歩行でトイレ誘導しているうちに尿意がわかるようになり、排泄を自分から知らせるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医や訪問看護と連携し排便コントロールしている。整腸作用のある乳製品等を提供している		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は2~3日に1回は実施 本人の要望に合わせて実施している	本人の希望により毎日入浴する方や職員と一緒に入る方もある。日中タイミングが合わなかった方は、夕食後でもその気になった時に支援している。普段言葉が少ない方が入浴すると話が弾み長風呂を楽しんでいる方もいる。仲よし同志2人で入浴する方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間など、個々の方の生活状況やニーズに合わせて支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の方の薬の内容、服用について理解した上で支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の満足度を念頭におきながら支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望された時間に行けない時は行ける時間帯を伝え了解を得ている。本人の希望を聞き、離宮公園、花鳥園、王子動物園、花見に出かけている。希望される方とされない方がいる	良い天気の日には散歩に出るのを日課にしている。歩いて近くの商店街やスーパーへ行ったり、車でホームセンターへ行くこともある。鳥が見たいからと神戸花鳥園へ行ったり、桜の花見に行ったり、遠出をする日は外食を楽しむ事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心の為に小銭を所持されているが外で使用される事はない		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関: コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、希望される方が居ない。希望があれば対応を行なっていく		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮しながら共有部は使って頂いている。限られたスペースなので空間づくりが難しい点がある	居間兼食堂を真ん中に、周りに居室、台所を配置している。一方に掃出し窓があり採光も良い。ソファとテーブル、テレビが置かれ、利用者が談笑していた。壁には折り紙で作った紫陽花や菖蒲が飾られ季節感を感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で声をかけあったりお互いの居室へ行き来されたり又は他者がいない空間に行き独りになって過ごされたりしている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類などは家族に持ってきて頂いたり職員と外出した際に購入している	居室の一方に窓があり採光も良い。大きな収納庫が備え付けられ、家で着慣れた服が衣装ケースに収められていた。風呂は家庭的な個浴を備え付けている。小さめのソファを置いたり、テレビを置いている方、写真をはっている方もあり、自分好みの部屋を作っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事は自身ですて頂いている。過剰な介護は行わない様に支援している		